琉球大学学術リポジトリ

オセルタミビル予防投与によるインフルエンザ院内感染防止：観察研究と文献学的考察

メタデータ	言語: English 出版者: 琉球大学 公開日: 2016-04-27 キーワード (Ja): キーワード (En): nosocomial infection, influenza virus A, prophylaxis, oseltamivir 作成者: 砂川, 智子, Sunagawa, Satoko メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/33667

平成　28年　3月　2日

（別紙様式第７号）

論　文　審　査　結　果　の　要　旨

報告番号	＊課程博　第　　号	氏　名	砂川　智子

論文審査委員		
	審査日	平成２８年３月２日
	主査教授	岸本英博　印
	副査教授	田中勇悦　印
	副査教授	益崎裕章　印

（論文題目）

Prevention of a Nosocomial Infection Caused by Influenza Virus A Using Prophylactic Administration of Oseltamivir: An Observational Study with Review of the Literature

（オセルタミビル予防投与によるA型インフルエンザウイルス院内感染防止：観察研究と文献に基づく考察）

（論文審査結果の要旨）

上記論文に関して、研究にいたる背景と目的、研究内容、および研究成果の意義と学術的水準について慎重に検討し、以下のような結果を得た。

研究の背景と目的

インフルエンザウイルスによる院内感染を防止することは、臨床上重要な課題である。本研究では、実際に病院で経験したA型インフルエンザウイルスのアウトブレイク事例の詳細を紹介するとともに、抗ウイルス剤オセルタミビルの予防的投与による院内感染予防効果についてこれまでの文献も参考にして検討している。

研究内容

本研究では、まず、沖縄県におけるインフルエンザ流行に関する定点調査による疫学情報と、琉球大学医学部附属病院における職員、および入院患者のインフルエンザ発症数が関連することが示された。すなわち地域社会でインフルエンザ感染症が流行した際には、附属病院において、職員、または入院患者にインフルエンザが多数発症することを明らかにしている。また本研究は附属病院のある病棟で経験した院内感染事例に関して詳細に検討している。当該病棟では、8人の医療従事者（看護師と医師）、および10人の入院患者が、インフルエンザウイルス抗原迅速診断検査の結果に基づきインフルエンザウイルス感染症と診断された。この院内感染事例を通し、発端者と感染経路、職員の臨床症状、入院患者の臨床症状（合併症も含む）、および迅速診断キットでの診断の限界、などを詳細に検討した。さらに、この院内感染事例において、発症患者と濃厚接触した医療スタッフと入院患者のすべてを対象に、オセルタミビルを7日間（75mg、1日1回、7日間）の予防的投与を実施した。この際に職員、および入院患者の発熱の程度を解析したところ、経過を詳細に追うことが可能であった入院患者において発熱の程度が軽く（平均最高体温は38℃以下）、臨床症状のみではインフルエン

ザと診断することが困難な症例を多数経験した。うち1例においては、二次性細菌性肺炎を合併し、人工呼吸管理がなされ、肺炎は完治した。この院内感染事例において、オセルタミビルの予防投与によりA型インフルエンザウイルスのアウトブレイクを短期間で終息させることが可能であることが示唆された。これまでの文献を見ると、2009年のpandemic H1N1 2009流行以前においては、インフルエンザの院内感染対策として抗インフルエンザ薬を使用したという報告は少数であったが、それ以降においては、予防的投与の事例が多数報告されており、インフルエンザウイルスの院内感染対策として抗インフルエンザ薬の予防的投与が推奨されている。

研究成果の意義と学術的水準

本研究の重要なポイントは、疫学情報と関連づけてインフルエンザウイルスの院内感染事例を詳細に解析した点にある。また臨床症状に基づいてインフルエンザウイルス感染症を診断することが非常に困難であるということゆえに、抗インフルエンザ薬による予防的投与を速やかに開始することで感染拡大を最小限に抑えることが可能となること、などが明確に示されている。インフルエンザによる院内感染の実態を詳細に示したこと、および抗インフルエンザ薬の予防的投与の有用性を示したことから、本研究の学術的意義は高いと評価される。

以上により、本論文は学位授与に十分に値するものであると判断した。

備　考　1　用紙の規格は、Ａ４とし縦にして左横書きとすること。
　　2　要旨は800字～1200字以内にまとめること。
　　3　＊印は記入しないこと。